

学生向け経絡治療勉強会 会報1

平成17年7月3日

「今から補法をします」

- ① 経に従って、取穴します。
- ② 押し手を構えます。
- ③ 鍼を立てます。（静かに鍼を持っていき、皮膚面に立てる）
- ④ 切皮します。（1～2mm刺入‘*1’）
- ⑤ 抵抗‘*2’に当たりましたので、催気‘*3’します。
- ⑥ 抵抗が緩むのを度として、指先を十分に締めます。‘*4’
- ⑦ 去ること弦絶のごとく抜鍼。‘*5’
- ⑧ 同時に、パッと押し手で鍼口を閉じます。

*1——1～2mm刺入・・・⑤にある“抵抗”を重視します。必ずしも、1mmや2mm刺入し
なければならない、というものではありません。

補法は気を補うものであり、気は体表の表面を流れることを意識します。

*2——抵抗・・・催気の練習をしていると、たまにふっと鍼先が軽く感じられるような
ことがあります。ひるがえって、その前の状態が鍼先が抵抗に当たっていた、という状態だ
と思います。

*3——催気・・・押ししたり、戻したり、回したり、振戦したり、あるいは弾いたり（催気
には様々なやり方があります）。

基本的には、刺し手には極力、力を入れずに母指で鍼柄上を滑らせるような感じで手技を加
えます。

*4——指先締めて・・・左右圧を100%かけます。これは、補った気を漏らさないようにす
るためです。但し、爪の先が白くなるまでは圧を加えないようにします。

*5——抜鍼・・・自分の息を吐きながら、押し手や刺し手に気が至るのを意識します
（暖かくなってくるような、とか）。そして、最後の一息を鼻から出しながら、弓矢が放たれ
るような感じで抜鍼します。この時、患者の呼吸に合わせ、患者が息を吸い込んだ時に抜鍼
するそうですが、私は合わせる事ができませんので、自分の呼吸のタイミングで抜鍼して
います。

*1～5は、現時点での私の感想が多分に入っています。ご注意ください。